



YONEZAWA-JU

山形県米沢市
移住ガイドブック

www.
iju-yonezawa.
com



ローカル暮らしの

いいところ、ぜんぶ。



米沢市

米沢市役所 企画調整部 地域振興課
〒992-8501 山形県米沢市金池 5-2-25
Tel: 0238-22-5111 Fax: 0238-22-0498
Mail: chiiki-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

米沢は田舎と都市がバランスよく混在する不思議なまち。
田舎暮らしのイメージとは異なるかもしれないが、
少し車を走らせれば、東西南北にのどかな田園地帯、
その奥には美しい山々が広がっている。
四季がはっきりし、特に冬の雪景色は幻想的だ。

コンパクトなまちなかには美味しい飲食店やカフェ、
買い物も不自由しない。
行きたいところへ、新幹線でひとっ飛び。
そう、ここはなんでもある田舎。

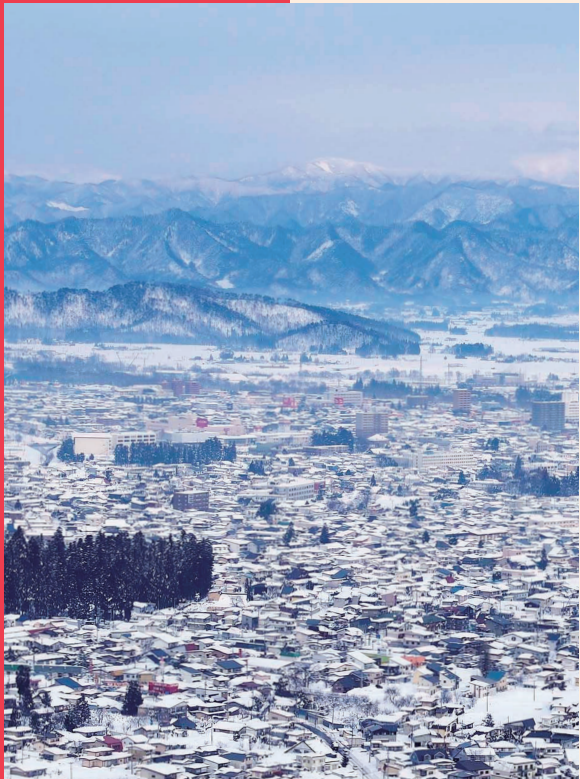
そして、過去と未来も同居している。
歴史の中から生まれてきた食文化やものづくりは、
大切に守られ、そして日々進化し続ける。
元々住んでいた人も、戻ってきた人も、
移住してきた人も、
まちをさらに面白くしようと動き始めている。
いろんなことが絡み合って、新しいものごとが生まれ、
まちが、どんどん変化していく。

のんびりも、ワクワクも、詰まってる。

ローカル暮らしの いいところ、ぜんぶ。

Index

暮らしのーと	3
松本海	3
今野良輔	4
五十嵐有佳	5
濱田祐輔	6
笹川夏希	7
木村芳子	8
遠藤勲	8
米沢市について	9
6つの魅力	11
移住ガイド	14
暮らし	14
仕事	15
住まい	16
子育て・教育	17
移住支援制度	18
移住ステップ	19
よくあるご質問	21
移住相談窓口	21



暮らしのーと

01. Matsumoto Umi

自然と帰りたいと思える
安心感があるまち



米沢緞通に惹き寄せられて

米沢生まれ米沢育ちの海さんは、大学進学で一度地元を離れ新潟へ。芸術系の大学でテキスタイルを学び、いよいよ就職先を探すタイミングで、米沢緞通・滝沢工房と出会います。都会への憧れも強くはなかったけれど、地元に戻るというイメージも持っていなかったという海さん。就職先を意識し始めた大学4年の4月、たまたまInstagramで目にした米沢緞通の作品に心を動かされます。「まさか地元でこんな素敵なものづくりが行われているとは思いませんでした」と、早速工場見学を申し込みます。

米沢緞通は、米沢絨毯有限公司の自社ブランドとして平成29年に立ち上がったばかり。手作業から生み出される風合いと、グラフィカルなデザインは、海さんの心を打ち、「米沢へ帰る」という選択肢が芽生え始めたそうです。「見学の時に案内してくれた事務所に、ここで働いてみたいという気持ち传达了。その後、新卒



松本 海さん
山形県米沢市出身
20代



を募集していなかったことを知らされますが、本気だった海さんはポートフォリオを持って面接を受け、入社に至ります。

人と人の近さが温かい

同級生たちが米沢を離れ都会に向かう中、地元で好きな仕事を見つけた。それは簡単なことではないかもしれませんが、引き寄せられるように米沢へと気持ちが向かったのは、海さんが人生の大半を過ごした米沢に感じる「安心感」も大きかったそうです。「自然に帰りたいと思えました。土地と人、家族の存在が大きいですね。ここにいと落ち着きます。祖母と一緒に買い物に行ったとき、知らないおばあちゃんや普通に話していて『今の知っている人？』って聞いたら、全然知らない人って(笑)。他の土地と比較できませんが、

米沢の人と人の近さはあたたかいと思います」

米沢に戻って3年目。「仕事も設計図から織り、展示会での販売やSNSでの発信まで任せてもらえるようになり、作ったものがお客様の手に渡る喜びを感じて、より一層やりがいが生まれています」。次なる目標は自身のデザインで緞通を作ること。今からイメージを膨らませているそうです。「大好きなおばあちゃんから教わった編み物は、今も趣味で続けています。昼も夜もずっと何か作ってますね(笑)」。近所の河原を夫婦で散歩するのが好きだという海さん。気軽に通える行きつけのカフェや、食べ慣れた米沢らーめんの味がいつも暮らしに寄り添ってくれます。心地よく好きなものが重なり合い作られる海さんらしい米沢の暮らしは、まだ始まったばかりです。



仕事を楽しむ父の背中を見て育つ

今野味噌醤油醸造店の店内に入ると、なぜかビートルズのBGMにビートルズのポスター。ビートルズの曲を聞かせて発酵させた味噌「麗音味噌」を開発するなど、楽しみながら仕事をする父の背中を見て育った良輔さんは、「継ぐことには抵抗なく、それしかないと思っていた」と言います。

良輔さんはお店を継ぐために米沢を離れ、仙台の大学で発酵を学び、社会経験を積むために埼玉の食品総合商社で営業の仕事を経験します。「小さい頃から親の仕事を見てきて、自営業っていいなって。常に家に両親がいるので子どもの頃も寂しくなくて」と、当たり前だった環境が特別なことだったのだと実家を離れて思ったそうです。

「麹の菌は生き物なので、手入れしてあげないと自身の熱で死んじゃう。だから人の手を入れて程よい環境にしてあげる。丸大豆醤油だと、約2年の熟成期間があるので、そこ



今野 良輔さん
山形県米沢市出身
30代



まで手塩にかけてきたものが商品化されて美味しいなんて言われると、まだ子どもはいないけど、子どもを褒められる感じと似ているんだろうなって」と、仕事に確かなやりがいを感じている良輔さん。

しかしながら日本食離れから味噌・醤油の需要が減ると同時に、廃業するお店も少なくありません。「同業者が消えるって悲しくて。日本食に寄り添ってきた味噌・醤油を作る人が減っていくのはもったいない。

一方で、父の代から始めた地元の方に向けた味噌教室は私も大切に引き継いでいます」と、食文化を未来へつなぐ使命感も生まれています。この冬、令和2年に廃業した米沢の老舗醤油店の味を引き継ぐために、試行錯誤を重ね、納得のいく味を再現させました。米沢らーめんを支えてきた味ということもあり、多くの方から感謝の声が寄せられています。「ただ

引き継ぐだけでなく、常に新しい挑戦をしていきたいです」

人と自然に癒される日々

「米沢は人のつながりが強い。お客さんもあたたかい人ばかりです。おじいちゃんおばあちゃんがいるところへ納品に行くのがすごく楽しみです」と、地元の方との交流に癒されていると教えてくれました。体を動かすのが好きだという良輔さんは、スノーボードが好きで、休日は天台山高原や米沢スキー場に滑りに行くことも。「今日天気いいから行こうかなという感じでふらっと行けるのがいいですね」。春から秋は景色を楽しみながら最上川沿いのサイクリングロードを走るのもお気に入りだそうです。日本酒も大好きで、夜は醤油を納めている居酒屋さんに顔出しがてら飲みに行くなど、マイペースに米沢暮らしを楽しんでいます。



醤油と味噌の文化を

未来へつないでいく

02. Konno Ryosuke



目指していた会社は 目の前にありました



化学をものづくりにつなげていく
山形大学工学部でバイオ化学工学を学ぶために、福島県喜多方市から米沢に移住した有佳さん。大学卒業のタイミングで人生を決めてしまうことに違和感を持ち、大学院へ進みます。ベンチャービジネスや地域の商品開発に関わる中で、将来のビジョンが少しずつ見えてきたそうです。「化学のことを素敵に紹介し、物として開発できたらずごくいいなって思い始めたのが、大学院卒業のタイミングでした」

有佳さんが、400年以上続く日本酒の蔵元・小嶋総本店の若女将である千夏さんに出会ったのは、置賜の地域づくり講座「人と地域をつなぐ事業」の活動を通してでした。千夏さん自身も元々大手メーカーの研究者。子育てをしながら商品開発にも意欲的で、有佳さんは千夏さんに憧れを持っていました。 「他県の会社内定が決まっていたのですが、仕事内容とやりたいことの違いについて千夏さんに相談する機会があり



五十嵐 有佳 さん
福島県喜多方市出身
20代

ました。その後、蔵見学をお願いした際、社長が新規のノンアルコール事業のビジョンについて話してください、発酵という視点から健康に良いものを作っていくところに興味が湧きました」と、目指している方向の会社が目の前にあったことに気がつき、小嶋総本店で働きたいと思ったそうです。

現在、有佳さんの仕事のひとつは、新規事業のノンアルコールの甘酒などの商品企画や販売をすること。「卸ではなく、直接お客様に販売するので、お客様がSNSで今日頑張ったご褒美とか、飲んでみたら美味しかったとアップしてくださると、やっていて本当に良かったなって思います」。日本酒に捉われず、常に新しい発想で展開していく会社に刺激を受けながら、自身も副業を許されている中で何かに取り組んでみたいという思いが湧き始めています。



伝統・四季・そして人の魅力
有佳さんは至る所に日本を感じる事ができる職場に魅力を感じているそうです。「会社には『お勝手』という方がいて、普段は伝統野菜の粕漬を作っているのですが、週に1、2回季節を感じる食事を作ってくれるんです。それがとっても美味しくて」
大学時代から過ごしている米沢については、「世界の上位2%に入る四季がはつきりしているエリアで、本当に素敵な場所だと感じます」と教えてくれました。「米沢の人は断固としたところがあります。それだけ芯が通っていて、守るべき何かがある。米沢の地だから芽生える人格なのかなど。それに、新しいことを始めて楽しんでる先輩たちがいてくれるのは大きいです。地方でも最先端のことに関われて、ワクワクできる何かがある。それが全てなんじゃないかなって思いますね」

自ら動いていけるキッチンカーで

「米沢を面白くしたい」。そんなエネルギーに溢れている祐輔さん。シルバーに輝くキッチンカーを走らせ、市内外で美味しいスパイスカレーを提供しています。

米沢生まれで、大学進学を機に新潟へ。「元々体育教師を目指して進学しましたが、大学の学友会に入って、イベントの企画やフリーペーパーを作る活動が楽しくて。それで大学院に進学し、メディアの研究をしていました」。卒業後は新潟県内のイベント会社勤めですが、多忙を極め、会社合併のタイミングで退社。平成30年に米沢へ戻ってきました。

「せっかく帰ってきたのだから好きなことをしようと思って、カレー屋を始めました」。もともと大のカレー好きで、新潟でもお気に入りのカレー屋に通い詰めたほど。そこで山形出身の店長と仲良くなり、カレーの作り方を教えてもらったそうです。店舗を持つ夢はあったけれど、まずは自分から動いていけるキッチンカー



濱田 祐輔 さん
山形県米沢市出身
30代



営業という選択をします。併せて、大好きなサウナの魅力を発信すべく、テントサウナ体験を各地で開催しています。

心強い仲間たちと
面白いことをつくる

米沢に戻ってくることに抵抗はなかった一方で、遊ぶ場所、楽しいことがあるかどうかは不安だったと言います。「現在もキッチンカー営業をさせてもらっているスタジオオ八百萬というコミュニティスペースとの出会いが大きかったです。最初は物件探しの目的で空き家ツアーに参加したのですが、今も一緒に活動している

仲間に出会えたのも、その場所です」。当初のイメージはいい意味で裏切られ、「米沢には起業した方や、歴史を紡いで頑張ってる方、その存在の



心強さを語ってくれました。
それでも、まだまだ若者が交流する場所は少ないのが現状。無いなら自分たちで作ればいいと、祐輔さんは仲間と一緒に「米沢ナイトマーケット」という夜遊びができるフリーマーケットイベントや、別の団体では年に一度「米沢アペロスタンド」という立ち飲みイベントを企画しています。「人口が8万人からどんどん減っていく危機感があります。でも、米沢はやりたいことを応援してくれるまち。市役所や商工会議所の皆さんが親身になって相談に乗ってくれます。最近も地元のお肉屋さんで共同で冷凍レトルトカレーの開発が実現できましたし、長年の夢だった店舗を仲間たちと立ち上げるになりました」。バー、レストラン、ゲストハウス、そしてサウナ。さまざまな交流が生まれる場所が米沢に誕生すること。米沢から生まれる「面白いこと」がさらに広がっていくそうです。



カレーにサウナに遊びに
やりたいを叶えられるまち

二人の夢を 叶えていく場所



米沢の大切な居場所を受け継ぐ

お店に入ると、かわいらしい空間の奥に、にこにこ笑顔の女性が二人。cafe mamenokiを運営する笹川夏希さんと木村芳子さんです。夏希さんは新潟県妙高市、芳子さんは青森県八戸市から平成30年に進学のため米沢にやってきました。

夏希さんの夢は飲食店経営。家族の食事を作っていた経験から、体に良いものを提供したいという思いがあり、米沢栄養大学へ進学します。「飲食で起業を考えていたときに、友人の木村と話していたら、木村も場所を持ちたいという思いがあり、一緒なら何かできるかもしれない」と。開業を目指し、卒業までマルシェ出店や、クラウドファンディングでの



笹川 夏希さん
新潟県妙高市出身
20代



木村 芳子さん
青森県八戸市出身
20代



資金調達にもチャレンジしたそうです。しかし、資金が思うように集まらず諦めそうになっていたとき、mamenokiのオーナーからお店を誰かに引き継ぎたいという話を聞き、「私たちに受け継がせて欲しい」とお願いしたのだとか。

芳子さんは、米沢女子短期大学で福祉を専攻。「教育実習での経験から、福祉の視点でケアが必要な子どもたちにフォーカスを当てたいと思っていました。農業体験やカフェを活用しながら福祉を展開していくことに関心が湧いて」と、夏希さんと一緒にやっていくことを決めたそうです。

mamenokiは二人が学生時代に出会った場所。「ここは地域に出て活動するような学生がよく集まる場所でした。相談相手でもあったオーナーが別の事業に挑戦するタイミングで、会計管理以外の全ての運営を任されています」

二人は今までのmamenokiの良さを引き継ぎつつ、少しずつ自分たちで考えたメニューやイベントを展開しています。

「やってみる」に背中を押されて

なぜ米沢なのか。「私にとって米沢はじめて地域に触れた場所。地元をあまり知らないまま一人で来たので、米沢の人のあたたかさに癒されました。学生時代から『まず、やってみる』と言ってくれる大人が多いです」と芳子さん。夏希さんも、地域の方の魅力に惹かれると共に「食材が美味しいのも飲食店をやる上で、すごく素敵だなんて思います」と教えてくれました。メニュー表に栄養の知識を添え、バランスの良い新たなメニューを検討している夏希さんと、子どもたちの居場所づくりとして個別学習塾を小さく始めた芳子さん。やりたいことの実現へ向かって、まっすぐに進んでいます。



思いを実現できる場を持つ

マスオさんとして米沢にやってきた勲さんが切り盛りする現場は、長きにわたり米沢のまちを治めてきた上杉家14代当主・茂憲伯爵のお屋敷。大正14年に再建した建物で、もうすぐ100年になります。当時、お義父様が運営していた上杉伯爵邸と米沢観光の拠点である上杉城史苑を引き継ぎ、移住前から感じていた米沢の可能性を確実に形にしています。

「平成23年に副支配人として上杉伯爵邸に入り、経歴10年目で社長になりました。同時に上杉城史苑の専務も兼務することになり、昨年の6月にこちらも社長に就任しました。元々

継ぐつもりはなかったのですが、『やれ』と言われたら『はい』と言ってしまっ性格で(笑)。でも自分の場を持ち考えを実現できることは、やりがいがありますし楽しいです」と話します。

前職で貸切バスの営業を担当していたこともあり「上杉神社をはじめ、酒蔵や米沢牛の料亭なども近くに点



遠藤 勲さん
山形県上山市出身
40代



在しているので、組み合わせれば観光の強みになると思っていました」と移住前から米沢に魅力を感じていたそうです。

自分の城を得た勲さんは、敷地内でドローンの大会やクリスマスイベントの企画、上杉鷹山が遺した「かてもの」をヴィーガン料理としてPRするなど、さまざまなことを仕掛けていきます。

米沢を盛り上げる多忙な日々

米沢に移住して12年。観光業のため取引先も多く、人と関わる人が多い勲さんは、「米沢の方は、みんなあったかい。最初はバリアを張るんですけど、一度内側に入るとすごく親身になってくれる。若い人たちだとそのバリアすらない」と笑顔で話します。「世話好きな人が多い。地域に無関心な方は少ないかも。歴史的



な背景もあると思いますが、みんな米沢に誇りを持っていますね」

そんな米沢を盛り上げるべく、同世代の仲間たちとまちづくり会社「ウコギ社」を立ち上げ、忙しさに拍車がかかります。ほとんど休みなく動き続け、週5で飲み会があることも。「途中でやつぱり嫌になるんですよ。でもひとつ終わると何か始めたくなる(笑)。終わった後の達成感が好きなんだと思います」

高校・大学時代はボクシングに打ち込み、東北2位まで上り詰めたという勲さん。その精神力が活かされ、「もしかしら毎日休みなのかもしれない」と、悟りを開き始めています。

ささやかな楽しみは、「伯爵邸の庭でひとり夜風にあたったり、お殿様の部屋で優雅な気持ちで仕事すること」なのとか。米沢と全力で関わるお仕事。ある意味誰よりも米沢を満喫しているように感じました。

米沢が持つポテンシャルを 広げていきたい

06. Endo Isao

「暮らしのーと」は
米沢市の移住サイトにて
随時更新中！



www.
iju-yonezawa.
com



城下町として形成されたまち 地域資源や独自の食文化も多数

松が岬公園(米沢城跡)周辺には、伊達氏、上杉氏が居城を構えたことから城下町として形成された街並みが残ります。公園や児童会館などもあり、市民の憩いの場に。また、上杉鷹山が行った「殖産振興政策」により、米沢織などの地域資源も発達。長く受け継がれる伝統野菜のほかに厳しい冬を生き抜くための保存食など、ちょっと驚く独自の食文化も。



薄皮丸なすの漬物



鯉のうま煮



山形県の玄関口であり コンパクトな盆地のまち

基礎情報

*令和5年3月現在

総人口
79,369人

土地面積
548.51km²

温泉地
8か所

米沢らーめん提供店
100軒以上



米沢市について



電子機器から職人技まで ものづくりが活発な地域

昭和30年代から企業誘致を進め、昭和53年には「米沢八幡原中核工業団地」への企業誘致を行ったことなどから、**製造品出荷額が県内で1位**。東北でも6位にランクインする業績です。情報通信関連産業では有数の生産地といえます。江戸時代から続く繊維産地でもあり、市内製造業事業所数もNO.1。職人技とハイテク産業の両者が盛んな、ハイブリッドなまちです。

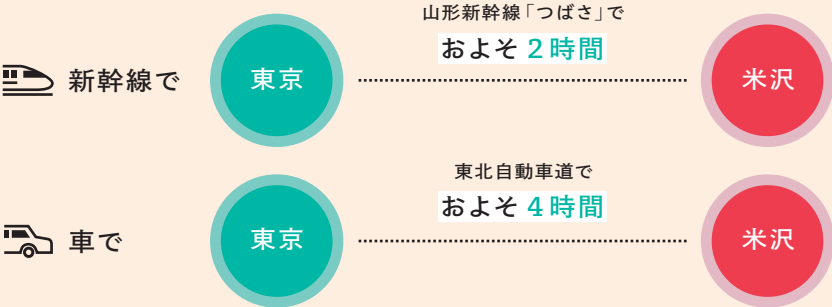


有機 EL 照明



米沢織の丸編み機

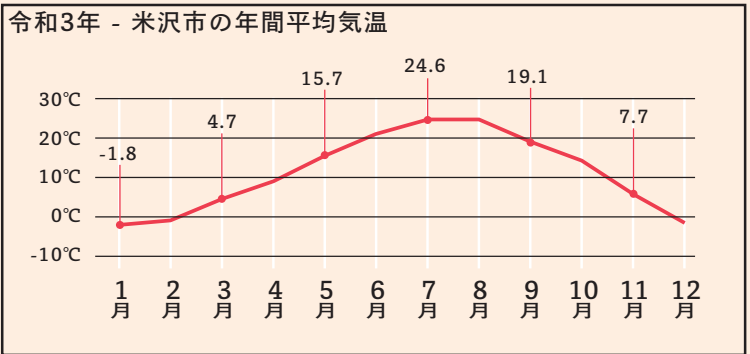
アクセス



東京 - 米沢間は、1時間に1本程度運行している山形新幹線があります。乗換なしで約2時間と意外と近い距離。米沢駅は、福島 - 秋田を經由し青森を結ぶJR奥羽本線、新潟 - 米沢を結ぶJR米坂線も運行(現在一部区間運休中)。東京・千葉と仙台のそれぞれから高速バスもあります。車では平成29年に福島 - 米沢間(無料区間)をつなぐ東北中央自動車道が開通し、移動時間が約20分短縮。アクセスしやすくなりました。東京、大阪便のある山形空港からは車で1時間程度の距離です。

県内でも有数の豪雪地 真夏は「夏らしい暑さ」

夏は高温多湿な地域ですが、年間降水量は全国平均のやや下。雪が降ることを考えると、比較的雨が少ないともいえます。特別豪雪地帯に指定されていて、県内でも雪が多い地域です。**市街地で最高積雪深が約150cm**に達することもある。まさに「雪国」を体験できます。



米沢人ってどんな人？

米沢市移住定住ウェブサイトでは、**米沢市内のエリア紹介**もご覧いただけます！



www.iju-yonezawa.com

「助け合いの精神」を大事にするのが米沢人です。シャイな人が多く、打ち解けるには少しだけ時間がかかりますが、一度仲良くなれば、その懐の深さから「信頼関係を作りやすい」と感じている先輩移住者は多いようです。

保守的？

世話好き？

シャイ？

郷土愛？

ホントのところは、ぜひ一度、皆さんの目で確かめてみてください！

6つの魅力



多彩な食文化は その歴史も深い！

食 ①

「米沢の味」といわれる定番の特産品は「ABC」の3つだ。A=Apple。「館山りんご」と呼ばれ、りんご栽培の起源では県内で最も古い。明治9年に県の勸業寮(今の山形県農林水産部)より苗の配布を受けて移植したのが発祥といわれる。ふじを中心にさまざまな品種が作付けされている。B=Beef。「米沢牛」は、米沢市を知らない人でも一度は聞いたことがあるのでは。寒暖差の大きい気象条件と、澄んだ空気、おいしい水が特上の霜降り肉を作り上げる。C=Camp。「米

沢鯉」の歴史は古く、上杉鷹山がタンパク源として稚鯉を取り寄せたのが始まりだそう。ハレの日に甘露煮(鯉のうま煮)にするのが米沢流の食べ方。忘れてはいけないのが「米沢らーめん」だろう。毎日食べても飽きのこない鶏ガラと煮干しのダブルスープは、後味あつさり。近年は「伝統野菜」への注目も集まっている。「小野川豆もやし」をはじめとする、地元風土を利用して作られた野菜は、地域が育てた郷土の味として受け継がれている。



豪雪地ならではの遊びが沢山 雪をプラスに考えて楽しむ

県内でも有数の豪雪地帯。寒さは厳しく、市内でも平均的な最高積雪深は150cm超え。1〜3月は「ザ・東北」な冬を体験できる。豪雪を活かし、毎年2月の第2土曜と日曜には「上杉雪灯籠まつり」を開催。松が岬公園(主会場)に約200基の雪灯籠と1000個の雪ぼんぼり(雪洞)にローソクの火が灯る。幻想的な雰囲気は、デートにもピッタリだ。1月中旬〜3月中旬になると小野川温泉には、かまくら

村が出現。近隣のお店のラーメンを出前してかまくらの中で食べてもOK! 「天元台高原スキー場」、「米沢スキー場」、「小野川温泉スキー場」までは、それぞれ市内から車で20〜50分程度で行けるので、ウィンタースポーツ好きにはたまらないだろう。

「雪が多い」と聞くと、ネガティブな印象を持つかもしれないが、「冬だからそのアクティビティが増える」と考えると、それすら素敵に響きに。雪国を思いっきり楽しみたい。



米沢から最新技術を発信 国内有数の工業団地

米沢市の産業を語る上で外せないのが「米沢八幡原中核工業団地」の存在だ。日本初の中核工業団地であり、総面積は約384ヘクタール。昭和53年に分譲がスタートし、企業の誘致を積極的に行ってきたおかげで令和4年に完売。現在70を超える企業が工場を置く。大手企業も多く、外資系企業も立地している。実は、ノートパソコンが世界で一番最初に誕生したのもここ米沢だ。近年は「米沢オフィス・アルカディア」エリアに「有機エレクトロニクス」の実用化研究



スマート未来ハウス

江戸時代から続く伝統産業 その技術は唯一無二



米沢を代表する産業のひとつ「米沢織」の歴史は、上杉鷹山が産業振興に力を注いだことから始まる。武家の女性たちに織り方を習得させ、養蚕業を進めたり、京都から織物師を招いて研究開発をしたことで、織物産業は急速に成長していった。関連業種の発展を含め、長く米沢の暮らしを支えている。特徴は紅花や藍、紫根などの植物染料から糸を染めて織ること。この技術が確立されると「出羽の米沢織」として、全国でも有名となった。養蚕

が盛んになり、麻織物から絹織物へ変わっていく。日本で初めて「人工絹糸(レーヨン)」が発明されたのも、米沢なのがご存知だろうか? 化学繊維の生産が始まったことで、織物の開発はどんどん進化。米沢は、「呉服」と「洋服生地」の二つの産地として、一気にトップクラスになったのだ。

現代においては、その伝統を守るべく、新鋭ブランドが立ち上がったたり、手に取りやすい小物を展開するなど、今もなお米沢織の文化は進化し続けている。



上杉鷹山が築き上げた産業、 そして精神を受け継ぐ

江戸時代、上杉景勝が越後から会津を経て米沢に入城し、城下を拡張。その中心地で、現在は市民の憩いの場にもなっている松が岬公園は、かつて米沢城があった場所。以後、上杉家(米沢藩)の城下町として発展した。第9代米沢藩主となった上杉鷹山は、米沢藩の再生に取り組み、数々の「殖産振興政策」を展開。その中で米沢織、笹野一刀彫などの伝統工芸品のほか、米沢鯉、ウコギといった食文化も誕生していった。上杉謙信が祀られ、米沢城の本丸跡に建立されたのが「上杉神社」だ。戦国最強の

武将として語り継がれる謙信にあやかり、開運招福、諸願成就、学業成就、商売繁盛のご利益があるとされる。明治35年、謙信とともに祀られていた鷹山は、その隣の「松岬神社」に分祀されている。境内には鷹山が家督を譲るにあたり、藩主の心得として伝授した「伝国の辞」の碑がある。「なせばなる なさねばならぬ 何事も ならぬは人の なさぬ なりけり」とは、鷹山が残した言葉で「どんなことでも努力すれば必ず実現できる」という意味だ。その志は現代の米沢人が持つ熱い精神の根源となっている。



3つの大学があり、 学生が集まるまち

市内には、山形大学工学部のキャンパス、米沢栄養大学、米沢女子短期大学がある。学生人口は約3600人。県内からはもちろん県外出身者も多く、全国から学生が集まっている。その学生たちがサポートする組織として「学園都市推進協議会」がある。取り組みのひとつは、情報サイト「ウェルカム米沢インフォメーション」の運営だ。初めての一人暮らしとなる学生たちに、医療機関、公共施設などの基本情報から雪国での過ごし方まで、暮らしに役立つ情報を発信。中でも、

市民のお祭りやイベントの際には学生から「お手伝いしたい」という声が寄せられ、地域住民との交流も盛んだ。そういった関わりをきっかけに米沢市が、第2の故郷となる学生市で就職したり、起業した人も。学生たちの活気は、まちづくりの大きな糧といえる。

5 米沢織



西吾妻山登山コース

IJU GUIDE

米沢で暮らすって、実際どんな感じだろう？ 見える景色や生活の感覚は、やはり暮らしてみないと分からないものがある。そこでここからは、暮らし・仕事・住まい・子育て教育をキーワードに、リアルな「米沢住」を紹介する。既存の田舎暮らしにとどまらない米沢ならではの特徴、そして押さえておきたいポイントも紹介する。後半には移住支援制度や移住ステップをまとめた。米沢市移住定住ウェブサイトでは、さらに詳しい情報を紹介しているので併せてチェックしてほしい。

暮らし

コンパクトで不自由なし 市街地と田舎の利点をいいとこ取り

住環境



春夏秋冬、豊かな四季の移り変わりを感じる生活

季節の移り変わりがはっきりとした米沢。市街地のどこからでも見える周囲の山々は、季節により全く違う圧倒的な美しさを見せてくれる。市街地の利便性を享受しながらも、足を伸ばせば豊かで雄大な自然がすぐそばにある環境が大きな魅力だ。仕事や子育ての疲れは近くの温泉

でサクッとリセット、新鮮な食べ物も体と心を満たしてくれるだろう。また、年間を通して祭りが多いことも特徴だ。しかも「傍観ではなく参加する」のが米沢スタイル。地域交流が多く、仲良くなった人と一緒に春の山菜を採りにいくのが楽しみという先輩移住者も。

雪のある暮らし

令和4年 - 山形県内の積雪量比較

	累積積雪量	最大積雪深
置賜地方(米沢市)	691cm	154cm
村山地方(山形市)	388cm	88cm
最上地方(新庄市)	706cm	176cm
庄内地方(酒田市)	246cm	43cm

(気象庁)

特別豪雪地帯・米沢では、早めの冬支度が肝心

雪を経験したことがない人にとって心配なのが雪事情だろう。山形県の中でも雪が多く、特別豪雪地帯に指定されている米沢では早めの冬支度が肝心だ。車は2WDよりも雪道の上り坂に強い4WDの方が安心。普通タイヤからスタッドレスタイヤへの履き替えも必須だ。外出する

際は車用のスノーブラシや長靴をお忘れなく。降雪時の道路事情では、朝の降雪量が10cm以上と予想されるときに除雪車が出動し、通勤時間までに主要な道路を除雪してくれる。一方、住宅まわりの雪対策や除雪は自分で行う必要がある。(詳しくは P16「住まい」へ)

交通インフラ



移動は車がメイン。市内循環バスやタクシーもあり

市内の移動は車がメイン。車を所有していない人は、市街地をまわる公共の市民バスや、タクシーを利用することが多い。市民バスの運行は1時間に1本程度。都市部のスピーディーな交通インフラに比べると、最初は不便に感じるかもしれないが、慣れれば問題ないだろう。また、市内で

運行しているバスでスキー場まで気軽に行くことができるのも良い。郊外の一部の地域では「のりあいタクシー」があり、高齢者を中心に通院や買い物に利用している。米沢駅など市内3施設で貸し出ししている電動自転車で、おすすめコースを巡るのも楽しい。

生活コスト

米沢暮らし1ヶ月の生活費 一軒家持ち家・4人家族の場合

住居費	76,000 円
食費	90,000 円
通信	20,000 円
車の維持費・燃料費	50,000 円
教育費	40,000 円
電気・ガス代	夏 25,000 円／冬 35,000 円
水道	夏 7,000 円／冬 9,000 円

車の維持費・燃料費は増える傾向

生活コストは、居住環境や生活スタイルにより異なるが、傾向として都市部と比較すると減るものと増えるものがある。例えば、地元の農産物を販売する直売所では、新鮮で安い野菜が手に入りやすい。時にはご近所から“おすそわけ”をいただくことも。一方で増えるのが車の購入費

や維持費だ。車生活となるため、一家で2～3台車を所有している家も少なくない。それから雪が降り冷え込む冬場には、電気・ガス等の光熱費がアップする傾向にある。左の図では、持ち家4人家族の生活費を例に上げた。現在の生活費と比較し、参考に見てみよう。

暮らしに関する
お役立ちリンクも公開中

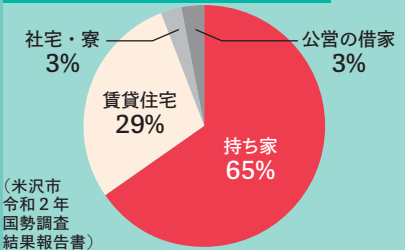


住まい

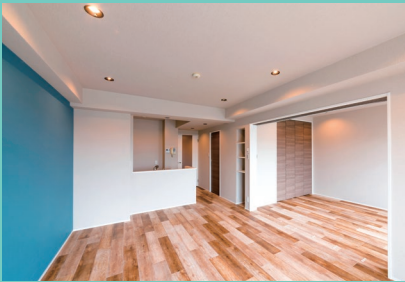
山形県内では比較的都市型のエリア 住まいの選択肢は豊富

住宅の割合

令和2年 - 米沢市の住まい形態



中古住宅



古民家



雪対策



県内でも比較的都市型のエリア

東京都の持ち家率が45%に対し、山形県の持ち家率は全国第3位の74.9%と圧倒的に高い(総務省「社会生活統計指標－都道府県の指標－令和3年」)。そんな状況の中、米沢市では持ち家の割合が約65%と県内では低め。持ち家以外の大多数がマンションやアパートなどの賃貸

持ち家検討では中古住宅情報もチェック

移住先の新天地で念願のマイホームを持ちたいと考えている人は多いだろう。米沢で持ち家を検討する際は、新築という選択肢以外に、中古住宅もチェックしておきたい。なぜかと言うと、米沢市では中古住宅のリフォーム補助金が用意されているから。しかも市外からの移住世

古民家暮らしをフルサポート! 「古民家再生協会」

モノにあふれる現代で唯一無二の価値を放つ「古民家」。より人間らしい暮らしや環境への配慮という点で興味を持っている人も多いはず。もし移住後の住まいや店舗利用として古民家を探しているなら「一般社団法人山形県古民家再生協会」はマストでチェックしておこう。

住まい探しの際は、雪の影響もイメージするべし

どっさりと降る雪は住宅への影響も大きい。持ち家の場合は冬支度として、家屋や植栽を雪から守る「雪囲い」をする家庭もある。雪が降る12～3月頃は家のまわりの除雪が日課になるとイメージしておこう。年2～3回の屋根の雪下ろしも必要になることが多く、家庭用の除雪機がある

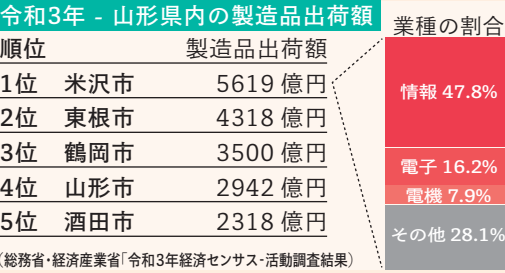
早めにリサーチしておきたい住まいのこと。市街地と里山が近い米沢では、アパート・マンション、持ち家と幅広い選択が可能だ。持ち家を検討している場合は、まずは賃貸に住み、土地の環境にある程度慣れてから購入するのがおすすだ。また、都会よりも地域住民とのコミュニケーションが重視されることは覚えておきたい。住宅への雪の影響についても、ここでしっかり押さえておこう。

住宅に住んでいるという状況から、米沢市が県内でも比較的都市型のエリアであることが分かる。ちなみに賃貸の家賃相場では、2LDK～3LDKの場合、東京都目黒区が28.45万円に対し、米沢市は6.31万円とかなり安い。(令和5年2月現在：アットホーム調べ)

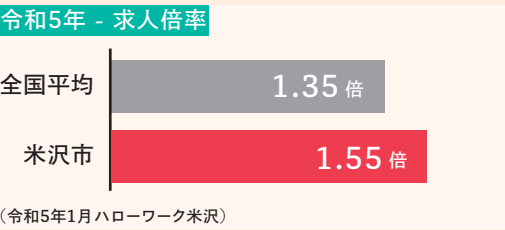
帯であれば一般世帯よりも補助率がアップする。米沢市移住定住ウェブサイトでは、中古物件を扱っている民間の不動産情報サイトも紹介しているので併せてチェックしてほしい。DIYやリノベが好きな人は、新築よりも雰囲気のある理想の中古物件に出会えるかもしれない。

ものづくりのまちであり、東北有数の工業地帯である米沢には、多種多様な企業が集まり、理系・文系問わず経験を生かせる仕事の選択肢が多い。また、最近に移住前のノウハウを生かし起業する人や、都市部の会社員に在籍しながらテレワークをする人など、現代的で自分らしい働き方をする移住者が増えている。米沢ならではの「顔の見える関係性」や「コミュニティを育みやすい環境」があなたの新たな挑戦を後押ししてくれるだろう。

産業の割合



求人



起業支援



就農支援



産業では製造業が主力

米沢市は、置賜地域(県南3市5町)の中で、産業・行政・教育・文化等、幅広い面で中心的な機能を有し、置賜地方の中では経済の要となる重要な位置を占めている自治体だ。主要な産業は製造業で、米沢八幡原中核工業地帯を中心に事業所が集まっている。

求人倍率は、全国平均を上回って右肩上がり

有効求人倍率の全国平均が1.35倍に対し、ハローワーク米沢管内(米沢市・高島町・川西町・南陽市)の有効求人倍率は1.55倍と、全国平均を上回る状況だ。米沢では人手不足で人材を必要としている会社が多く、正社員・契約社員・パートなど、自分の生活スタイルにあった働き方

未開拓な余白が、チャレンジ精神を掻き立てる

地方ならではの未開拓な余白がまだまだある米沢では、起業や産業移転のチャンスがある。チャレンジを後押しする事業支援も多数用意されているため、新たな挑戦をするにはもってこいの環境だ。例えば、新規事業を起こす創業者に対し補助金を交付する「米沢市創業支援事業」

農業を始めるなら山形! 新規就農者数は東北No.1

日本屈指の農業県・山形は、つや姫に代表される全国有数の「米どころ」であり、サクランボ、西洋なし(ラ・フランス)が特に有名な「フルーツ王国」だ。令和4年度の新規就農者は358人。調査を開始した昭和60年以降で最多となり、令和2年度から3年連続で350人以上、東北6県では7年

仕事 人材を求めている企業は多数 起業や就農支援サポートも充実

令和3年度の米沢市の製造品出荷額は5619億円にも上り、山形県内では第1位、さらに東北では第6位を誇る、東北有数の情報関連産業の集積地だ。米沢市の製造品出荷額の業種別内訳は、情報・電子・電機を合わせて約72%で過半数を占めている。

の選択肢がある。米沢商工会議所が運営しているウェブサイト「やまがた就職企業ナビ米沢」では、求人情報はもちろん、米沢で活躍している80以上の企業情報や転職・就職活動中の方を対象とした公的支援情報も発信しているのでチェックしてみよう。

では、40歳以下の補助上限額引き上げや転入起業家への補助拡充など、近年サポート体制を強化している。また「やまがたチャレンジ創業応援センター」では補助金だけでなく相談窓口やセミナー等の支援メニューも充実。起業に興味がある人は必ずチェックしよう。

連続で第1位を誇る。農業に挑戦したい人は、新規就農者サポートが充実している「公益財団法人やまがた農業支援センター」をチェック。動機付け・就農準備のための研修・就農定着と、新規就農者に向け、各段階に応じたきめ細かな支援体制でやる気をサポートしてくれる。



移住支援制度

知らなきゃソン！
移住者向けの支援制度が盛りだくさん

01 移住検討時の交通費・宿泊費サポートもあり



移住を検討したいときに使えるさまざまな費用サポートもお見逃しなく。例えば山形県内で就職を希望しているなら、採用面接又はインターンシップ参加の交通費の一部を助成する「山形県Uターン就職活動交通費助成事業」がある。

また、移住前に山形県でテレワークを

してみたい場合には、経費に対して最大5万円を補助する「やまがたお試しテレワーク移住補助金」事業もあるので、上手く活用していこう。ほかにも、提示するとホテルやレストランが割引になる「やまがた暮らし応援カード」といったサービスもある。

02 東京圏からの移住者必見の移住支援金



米沢市では、市内への移住・定住促進、そして中小企業における人材不足解消を目的に、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）から移住を検討している人向けの移住支援制度を用意している。

気になるその内容は、東京圏から米沢市に移住した人がマッチング支援対象の

求人に応募して就職した場合や、生活の拠点を米沢に移して、これまでの仕事をテレワークで行う場合などを対象に支援金を交付するというもの。移住前、移住後ともにいくつかの条件があるため、まずはウェブサイトで詳細をチェックして自分が対象になるか確認してほしい。

03 オーダーメイドの「おためし暮らし」でリアルな移住体験



実際に土地の空気感を感じたいなら米沢市が実施している「おためし暮らし体験」がおすすめ。これは移住を決める前に米沢の暮らしを実際に体験できる制度で、地域住民との交流や雪かきといった暮らしの体験ができる。移住コーディネーターのアテンドが強みで、30分程度

の事前ヒアリングで細かい希望を聞き、先輩移住者に会いたい、生活必需品が売っている場所を確認したいといった希望に対し、当日の体験がより濃いものになるように考えてくれる。期間は1泊2日又は2泊3日で、宿泊費は米沢市が負担。宿泊先は農家民宿となる。

04 米どころ山形ならではの 米・味噌・醤油をプレゼント



山形県では、県外からの移住者に対し、米どころ山形の県産米や味噌・醤油を1年分提供する「食の支援」事業を実施中。これは、山形県・市町村・JA全農山形・山形県醤油味噌工業協同組合による連携事業で、2人以上の世帯と単身世帯でそれぞれの量の米・味噌・醤油がもらえると

いうもの。なにかと出費が増える移住時に嬉しい、山形の質の高い「食」を楽しむ支援制度だ。支援を受けるには、移住前の事前相談が必須で、対象期間であれば移住した後でも申請可能。提供の対象となる世帯には条件があるため、詳細はウェブサイトを確認してほしい。

米沢市および山形県ではあなたの「移住したい！」を応援する支援制度を多数用意している。移住前から移住後まで活用できる助成金や支援を賢く使っていこう。内容は年度により変更があるため、必ずウェブサイトで最新情報をチェックしてほしい。

疑問や質問は、米沢市役所や、やまがたハッピーライフ情報センター（東京都）、一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター（山形市）の担当者に積極的に確認しよう。ここでは特に注目したい制度として、その一部を紹介する。

子育て・教育

共働きの子育て世代を
サポートする環境と体制が充実

教育方針



先人に学び、地域を担う多様な人材を育成

米沢市では、「『教育の米沢品質』を共に創り上げ、持続可能な社会に貢献できる人づくり」を教育振興基本計画とし施策を展開している。

自ら考え行動し、たくましく社会を生き抜く力を持ちながらも、思いやりや相互理解を併せ持った「新たな時代にマッチ

した『がってしない(米沢の方言でたくましい、へこたれない)子ども』と『おしょうしな(米沢の方言でありがとう)の心を持つ子ども』の育成などを教育方針に掲げ、米沢から世界を目指す若者や、一人ひとりが輝き地域を担う多様な人材を育てている。

子育て支援・助成



手厚い子育て支援体制で、仕事復帰もスムーズ

米沢市では、妊娠から子育てまでを切れ目なくサポートしてくれる体制が充実。出産後のケアはもちろんのこと、注目すべきは仕事復帰時のサポート体制だ。0歳から保育できる施設があり待機児童はゼロと、都心よりも仕事への復帰時期をコントロールしやすい環境といえるだろう。

また、病児保育、一時預かり、休日保育のほか、ファミリー・サポート・センターなど、共働き世代や多忙な子育て世代に嬉しい体制が整っている。さらに、子育て支援医療も手厚く、0歳から18歳まで（18歳の誕生日後の最初の3月31日まで）の医療費を市が助成してくれる。

施設・コミュニティ



親子で安心・楽しめる！ 充実した遊び場

市内には子どもがのびのびと遊べる広々とした公園をはじめ、市営の屋内遊戯施設やスキー場など、雪の日でも楽しめる施設もある。児童会館・図書館・博物館・昆虫館などの体験や学習の場も充実している。コミュニティセンターや子育て支援センターなど、乳幼児から親子

で集える場と環境も整っているので、知らない土地での出産・育児に不安がある人でも安心してつながりを育てていくことができる。また米沢は、子どもの居場所づくりや多世代交流の場づくりなど、市民活動が活発。自分でコミュニティを作りたいという人には最適な場所だ。

習い事



地域性を生かしたユニークな内容にも注目

置賜地区の中枢を担う米沢市では、企業や団体が運営する習い事が多数あり、選択肢は英会話・音楽教室、プログラミング、スイミング、サッカーなど多数。また、米沢市スポーツ少年団ではサッカー、野球、スキー、バドミントン、柔道、空手など、さまざまな種目の団体

がある。また、幼児と小学校低学年を対象に季節ごとの森の様子や自然を体験する「森のようちえん」や、子どもたちが楽しく学びながら時代を生き抜く力を育む「探究教室 ESTEM」といったユニークなものも。米沢市が主催するスキー教室は小学校4年生から参加できる。

移住支援制度の
最新情報はこちらから



子育て・教育の
お役立ちリンクも公開中



移住ステップ

スムーズな移住には事前準備が大切！
目的の優先順位も明確に

移住して理想の暮らしを実現させたい、でも何から始めればいいかわからないという人へ。ここでは「米沢」を成功させるための基本のステップを紹介する。今自分がどの段階にいるのかを確認し、気になることがあれば米沢市の移住相談窓口気軽に問い合わせてみよう。移住コーディネーターが丁寧に対応してくれる。

おためし暮らし体験 参加者募集中

先輩移住者や地域の人たちに会えて話せる「おためし暮らし体験」。参加してみたい方はこちらからお問い合わせください。



体験内容



申し込みフォーム

Step 01



目的を明確にして 条件をリストアップ

移住成功の最大のヒケツは、目的をはっきりさせること。移住に何を求めるのか？どんなライフスタイルを叶えたいのか？絶対に譲れない条件を精査してリストアップしてみよう。パートナーや家族間で、地方生活への思いや仕事・子育ての環境などを共有しておくことも大切だ。

Step 02



情報収集は 都会でもできる

米沢市の移住相談窓口では、電話とオンラインで個別相談を受け付けている。日本最大の移住相談センター「ふるさと帰郷支援センター」や移住イベントなど、都会でも相談できる場所はあるので、積極的に活用しよう。都市部と地方では常識が違うこともある。小さなことでも気軽に聞いてみよう。

Step 03



移住体験で 実際の生活を体験

移住を決めるまでの訪問回数は平均2～3回。現地訪問では、「おためし暮らし体験」を積極的に活用しよう。なにがしたいか、どんなことが不安かなどを移住コーディネーターと話しておくことで、移住後の生活をより具体的にイメージできるようになる。

Step 04



仕事・住まい探しは 各種支援を上手に活用

仕事探しでは、自分の条件と合うものを探すと同時に、たくさん用意されている移住者支援制度を賢く活用していきたい。住まい探しでは、雪事情も必ず考慮すること。雪国生活を経験したことがない人は、事前に移住相談窓口相談するのがおすすめだ。

Step 05



準備漏れがないか 入念に確認

住所変更等で市役所の窓口へ行く際は、しっかりと要項を読んで準備するものを確認してから訪れよう。カード・運転免許等の住所変更、インターネット等の通信環境の手続きなどの細かいToDoはリストアップしておくで漏れがない。準備金は余裕をもっておく心安心だ。

Step 06



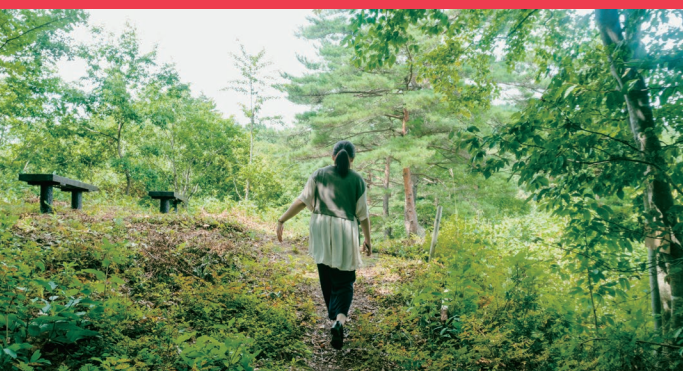
移住後のあいさつは 地方暮らしの第一歩

移住後のあいさつは、移住者が地域にとけこむ大切なステップ。まずは町内会長・隣組長を紹介してもらい、どこまで挨拶まわりしたらよいのか？ など相談してみよう。自分たちがどんな暮らしがしたいのかも伝えておく、その後の生活でなにかと力になってくれるはずだ。

移住ボイス

いいことも、苦労したことも！
移住にまつわる生の声

先輩移住者の声をご紹介します。それぞれのライフスタイルに合った暮らしを実現できるように、メリットもデメリットも知っておきましょう！



米沢移住の決め手

新しいことにチャレンジできる
環境がそろっている

新幹線もあるので
都心近郊へのアクセスがいい！

米沢ならではの子育て環境がある

地域の人フレンドリーで優しい！

移住して良かったこと

食べ物がおいしい、しかも新鮮で安い！

家賃や食費が2～3割安くなった

生活のペースがゆっくりになって、
趣味や家族との時間が増えた

スキーやスノボはもちろん
四季ごとのアクティビティが楽しい！

移住で苦労したこと

一人一台の車がないと結構不便

冬はでかける度に除雪が一苦労

お年寄りの方言が理解できなかった

ガソリン代や除雪機のコストがかかる

VOICE



Website

米沢市移住定住ウェブサイトも更新中！



Instagram

いろんな視点の米沢移住を発見！



米沢プライド。
そう、このまちの人たちは米沢に誇りを持っている。
歴史や学問、ものづくりや食文化に至るまで、
上杉鷹山の遺した功績は大きい。
年月を重ねていく中で、変化し、消えていったものもある。
しかし、そこに新しい可能性が芽吹き始めている。
まるで鷹山の精神を受け継ぐように、
複雑化する現代の課題解決に向けて、
いま米沢を生きる人々が軽やかに、楽しみながら動き始めた。
そして移住者の新しい発想を受け入れて、化学反応が起きている。
人が集まり、まちができていく。
他人任せではなく、自らが動いていくことで、
小さな力が集まって大きな力になっていく。
そして、挑戦する人をあたたかく見守ってくれる人がいる。
変化し始めたこのまちを、一緒に楽しもう。

www.iju-yonezawa.com

よくあるご質問 FAQ

Q.1

移住前に自宅でできる仕事探しの方法は？

A.1

オンラインでの情報収集！

米沢商工会議所が個別相談を実施していたり、移住サイトにも仕事探しの役立つリンクを掲載しています。事前予約で米沢市役所の移住担当に相談することも可能ですよ！

Q.4

教育機関はそろっていますか？

A.4

保育園・幼稚園から大学まで！

保育園・幼稚園、小・中学校、高校、大学までの教育機関があり、成人まで子どもを見守ることができます。慣れ親しんだ友達と米沢で成長を共にできます！

Q.2

病院はありますか？

A.2

まちの医者から総合病院まで。

総合病院をはじめ、市内には50カ所以上の診療所があります。日頃の通院から、大きな病気や急病にも対応できる医療体制も整っています。

Q.5

雪国ならではの必需品はありますか？

A.5

防寒着・暖房機器などが必要です！

冬はかなりの量の雪が降ります。防寒着やこたつ、ストーブ、長靴はマストアイテムです！車を持つ人なら、スタッドレスタイヤと冬用ワイパー、スノーブラシは必須！

Q.3

生活必需品はそろいますか？

A.3

生活必需品には困りません！

まちなかにはショッピングセンターの他にスーパーやドラッグストアも多数あるので、日々の生活雑貨や食料品の買い物は米沢市内で完結できます。

Q.6

知り合いができるチャンスはありますか？

A.6

まずはお祭りやマルシェに出かけよう！

お祭りに遊びに行ったり、運営にも携わると知り合いが増えると思います。その他にも多数のコミュニティがあるので気の合う仲間に出会えるかもしれません！

移住相談窓口 Support

米沢市では、移住を検討しているみなさまに役立つサポート・相談窓口をご用意しています。

離れた土地のことはなかなか想像しづらいと思いますので、ご不明点がありましたら、お気軽にお問い合わせ・ご相談ください！米沢市の移住担当が米沢の暮らしを精一杯ご案内させていただきます。

こんなご相談にお答えしています！

米沢ってどんな街でどんな人が住んでいるの？
私でも馴染めるのかなあ。

冬の暮らしはどんな感じなんだろう？
雪国初心者でもちゃんと生きていけるもの？



米沢市の移住相談員がサポートさせていただきます！

仕事や住まいの支援制度はどんなものがあるの？
支援制度の対象になるか知りたい！

米沢市 移住相談窓口

米沢市役所 企画調整部 地域振興課

〒992-8501 山形県米沢市金池 5-2-25

Tel: 0238-22-5111 Fax: 0238-22-0498

Mail: chiiki-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

www.
iju-yonezawa.
com



米沢市移住定住ウェブサイト



移住相談フォーム